

奈良高専現代視覚文化研究会 2021年 春会誌

ALCHEMY

あろけみー



まえがき

こんにちは！ 現代視覚文化研究会、略して「げんしけん」の会長もちまるです。新入生の皆さん、入学おめでとうございませう！
2021年春会誌『Alchemy』を手に取っていただいて、ページを開いていただいております！ ありがとうございます！
読んでくださって、もっとありがとうございます！ そんなありがたい皆さんのために（？）、げんしけんの活動について紹介（という名の宣伝と勧誘）をさせていただきます。

げんしけんがしていることは、一言でいうと「創作活動」です。具体的には、主にイラストや小説を、年四回発行の会誌で発表しています。一応この二つと音楽、ゲームの四つの班があるのですが、まあ深く考える必要はないです。二種類のものを同時に作っても良いですし、何ならこの四種類に入っていないものでもオッケーです。要は好きなものを創作すればれっきとした「活動」になります。

あとは、会誌以外でも企画で創作物を見せ合うこともあったり、月一回、会誌の〆切やその他重要な事（説明放棄）を決める会議を開いたりしています。その会議にすら強制力は無いくらいです。から、部室に毎日顔を出す必要はもちろんありませんし、その他色々ゆるい部活です。「ちょっと気になるけど〇〇部に入りたいかなあ」と考えているあなたも、兼部対象にいかがでしょうか。「創作とかしたことないよ！」と思っただ方も、気にしなくて大丈夫です。むしろ中学生の頃から創作してたメンバーの方が少ないと思います。私も、イラスト描き始めたのなんて高専入ってからですよ。当然、上手な文章を書ける方、イラストで賞を取ったことがある方々も大歓迎です。

結局何が言いたいのかというと、「皆、げんしけんと一緒に創作しよう！」ってことです。去年は色々やこしかったので活動少なめでしたが、今年は少しずつ、無理のない範囲でげんしけんを盛り上げていきたいと（一人で勝手に）思っております。他人との交流はモチベーションに繋がりますからね！

そういうわけで、会長は皆さんと共に作品を作る日を心待ちにしています（他のメンバーも多分）。げんしけんの部室は、第一体育館の近くにある謎の平たい建物の、ちよつと奥まったところにあります！ げんしけんに興味を持った方、質問がある方、是非見学に来てくださいなね！！

以上でまえがきはおしまいです。次のページから、小説、そしてイラストを楽しんでください！ それでは！

もちまる

目



波

いらすと

あしっど

冬月

緋色

もちまる

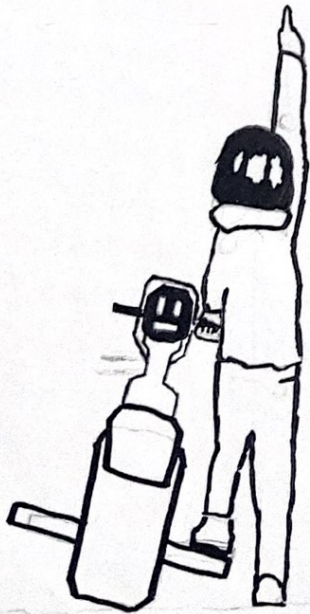
小説

篝火

コラム

kuroma

+ 自己紹介ページ





あしゅと

冬月



線画：緋色

塗り：冬月





もちまる

もちまる



今からだいたい百年ほど、いうて昔でない昔の話。各国が同時に発表した地球の滅亡へのカウントダウン。詳細は伏せるが、確かな情報ソースと共に、それは一夜として世界中に広がり、人類史に残る変革の瞬間だったという。

嘆く者も、嘯く者もいたというそれは、だが今の事実が証明している。国同士の諍いを全てとつばらい、『人類』という一括りとして掲げた宇宙への脱出。未知の世界への進行が、全人類の移動という前提では百年という時間ですら難しいだろう。

しかし奇跡としか呼べない。全人類一丸となり、テロ組織等も大人しくなり。倒産する会社と同時に失業者も最多の年だが、無職の人数は著しく減った。

たとえ自分には関係ない話だとしても、同じ種を、他の生命体とは別の形で後世へ残そうとするのは後にも先にも人類だけであろう。

……ぶつちやけそんなふうに締められた教科書を力任せに破り、遙か彼方に見える、空へ向かう一条の光を眺めた。

私が産まれる以前より開始した宇宙への移住計画第一号客船。含め最終号まで全て安全に送り届ける為に管理する地上のエリートさん達。長い間お疲れ様でしたと思いつながら、彼ら専用の最終小型ロケットが消えていく様を見て、何か言うべきかと。

「ならば同胞たちよ……」

『21××年度の【ならば同胞たちよ】を再生しますか？』

「似合わないのはわかったから傷口抉らないで」

事実上として滅びる星に、自らの意思で取り残った少女を除いて。



この歴史は後に大業と称され、新たな星でも語り継がれるだろう。宇宙船の中は悠々快適に、全てロボットが寝食共に管理し、専門の開拓船が次の星の準備ができるまで永遠に自給自足できるらしい。

ただそこに辿り着くまでに捨てた物の数々。一昔前は環境破壊だのなんだの揉め事があつたらしいが、世代と共にその思想も薄れていった。

記憶にある学校でも、進路の目的地が完全に固定され、何を行うにしても宇宙産業やら部品やらそれを支える人様のためを理由にしなければならなかった。

一見悪そうに見えても合理的なだけであり、別に優柔不断な私は最後までレールが引かれてもその道を進むのに抵抗はしない。

ただ「昔は良かった」だの言いながら何も意見せず、その「昔」すら語ろうとしないジジババ然り。何も生産性のない動きを酷く軽蔑する親と一緒にいたくなかっただけである。

それに“生産性としての価値”が早々に見限られていた私だ。宇宙船の中で失踪と捉えられても、あの親は見限る。それが確信できたから、だったら最後までいい理由もなく飛び出してもいいじゃないか。

「キューブ。海って近くにある？」

『西に3キロ先、ビーチの一つとして登録されています。向かいますか？』

「おねがーい。キューブならどれくらいで着く？」

『自動運転に切り替えます。はい、到着までの予想時間は57分です』

かつてはこのひび割れた黒い地面の上に、自動車というものが埋め尽くすほどあつたらしい。お偉いさんの移動を除き、ほとんどの

ものが回収され、宇宙船やロボットの素材に回された。代わりにその宇宙船用ロボットの……悪くいえば試験機として、そこそこの距離移動にキューブというものが開発された。これもひとつの弊害というが大荷物を運べるものでもなく長距離もあまり向かない。駅の近くない集落の住民などは、拡大していく大都市へ半ば強制的に取り込まれ、都市周りの近郊農業以外は廃れて行った。

都市部から離れると撤去されていない信号機がチラホラ出てくる。空いているどころか人っ子一人いないため最速を維持してもらい、8分近くで目的地へと着いた。

「しまった夕焼けとかの方が映えたかな。まあいいか、キューブ保存して」

『一つのファイルをQUBEにアップロード完了しました』

特にすることも無く写真を一枚。海沿いにどんだん都市部から遠ざかっていく。次の日は手入れされていない歴史の城を見に行き、その次の日は夜は満月らしく、その為だけに昼間に映えるだろう地形をくまなく探した。特に目的地もなくブラブラと。

「キューブ雑談しよう」

『フユ様は何故ことある事に写真を撮るのでしょうか？SNSにアップしてみたいかがでしょう。友達ができますよ』

「バレるじゃん」

一日に一言二言キューブと雑談する。割と孤独とか感じてるのかもしれない。あんな親でも良かったなんて思いたくないが、話し相手欲しい。

ちなみに最初海で写真を取り出したのは、「カメラ少女ってなんかいいじゃん？」という動機だ。

翌日。カッパの子を釣りました。



「いやはや、だいぶ前に消えてから人間なんて久しぶり。あ、きゅうりありがとう」

「いえ、お構いなく……」

妖怪というものがどんな存在か分からないため初めは距離が自然とできた。お構い無しに話しかけてくるがニンゲンマルノミタイプではなさそうである。曰く滅多に人間に会わなかったため警戒心が薄れていたと。キューブに地域のことを聞きカッパの目撃情報に吊られ、きゅうりを餌に使った私も確信犯だともう少ししゃんとしてくれ。

「はるか遠くでも気配だけは掴める自信があったんだけど、人間らは島外へ？うちの噂でもやつとこの地が危ないと聞いたばかりなのに本当に行動早いね」

「あはは……危機察知能力はすごいもんで……人間がいなくなっただけじゃありませんか？」

「君を除いて最初はね。ただ人間と繋がりのあった土地神が寝てからは、恩恵受けてた格下も眠った。こっちの階級の話だけど、うちらは特に何も無し。鬼とかは一族集めて「滅びてたまるか」つつて立ち向かうみたいだよ。あれに」

「本気ですか？」

「一度言ったらまあ退かないでしょ。うちらもあれが何かわかってないし、人魚のところに海渡れるよう頼んでる。一緒に連れてってあげよっか？」

「いえ、やめときます。まだ用事がありますし、人間にはもう会えないでしょうしね」

その後そのカッパの子とご家庭にもてなされ、三日後に出発した。

カッパは米を栽培してぬか漬けにハマってた。

「キューブたたいま」

『よろしく願います。今日はどこへ行きましようか？』

「そだね……次はダム行きたい。雑談しよう」

『了解です。近くのダムを目的地へ設定しました。現在地は家から離れています。一度帰ってみてはどうでしょう』

「……（設定した家もう潰れてるんだけど。）他のこと話そう」

『お友達と連絡は取っていますか？お友達のお友達と近づくといいことがあるかもしれません』

「あ！そうなの。新しい友達できたの。ちゃんと人魚の方ともお話ついて避難できるんだって。何も無かったらまた来てねって言われたし、本当に何も無かったらいんだけど」

『すみません。何をおっしゃっているかわかりません』

薄情者めと吐き捨て、キューブはまた走り出す。そしてなんの脈絡もなく、急激に停止して私は宙に投げ飛ばされた。



『QUBEを老式F1（浮遊移動）型01へと接続します。コードは153348です。フユ様ご確認ください』

「今度吹き飛ばしたら産廃送りにするぞ」

言ってみるが、この短い自由時間でも気をつけなければならないことは沢山あったことを思い出す。足であるキューブ。正確には付属の□装置の事だが、これが壊れた場合早直す技術が自分には無い。これに関しては宇宙船に積込みきれなかった分が、修理屋等に不法侵入（法もクソもないが）して調達できる。キューブの本体と付け替えるだけなら簡単だ。

だが怪我はどうしても最初に人が対応する必要がある。一応安心感は薄れるが、全てキューブの他の形態に任せることは可能だ。Ⓢ（救急）型やⓉ（看護&補佐）型に繋がれば安心だが、如何せん専用の付属が大きすぎる。□型は一人一人の荷物しか運ぶことを想定されてないため持っていけるものではない。

「これまで以上に安全運転をお願いします」

『はい。ⓈⓉはいつでも安全運転を心がけています』

「全然点検してなかったからなあ。ま、もう大丈夫だし」

心がけなきゃいけないのは私の方だ。でも実際点検が必要なほど時間はかからない。

『フユ様。メールが一つ届いています』

「なに？まだ私たち卒業してないから宇宙でもやろうってクラスメイトから？」

『お母様より、「何処にいるの？」です』

無意識のうちに息が詰まった。心配するような性格ではないし、母親も自分もひと月ほど前の宇宙船で地球を出たという設定だ。連絡が遅すぎるし宇宙船内で一人を探すなんて何年かかるか。

そして対応も決まっている。QUBEの本体、手のひらサイズでもできる機能のカメラやメールには、プライバシー等の理由に引っかかりたくないため厳重な設定ができる。即ち……

「メールは未読スルー。対象“全員”ブロック&削除」

『了解です』

特別嫌いという訳では無いが、関わりたくない。相手も同じだろうから、知らないままでいい。



お猫様と出会いました。
おそらく野良。

黒毛。

仔猫。

けっこう懐っこい。

やばいです。

メッサ可愛い。

「容量パンパンになっちゃった。恐るべし……」

調子に乗ってカメラ少女の役職を断念しなくてはならなくなつた。とか宇宙船はペット可だつたし、元々地上でも猫カフェやふれあい広場は数少ない娯楽の一つとして大人気だつたはずだ。野良猫は乱獲（良い意味で）され、存在自体が凄く希少である。野都市部から離れてもいい事あるものだ。海なんかは場所を選ばないとゴミ溜めだし、ひとつの街に車や貴金属を溶かすため、必ず巨大な製鉄所がある。

「キューブってPET（ペット）型とかあつたっけ？」

『すみません。何をおっしゃっているかわかりません』

「仮にあれば全権限をこの猫に与えたんだよ。それだけ」

ペットを飼うには覚悟がいるらしい。その子が生涯を全うした際きちんと受け入れられるか。それまで成長過程での面倒を見れるか。はたまたご近所トラブルに発展しないか……

実際私にはそれらを抱える必要は無いし、よくてひと月ほどの関係だ。

「だか良いのだろうか？何か……何かは分からないが、それではダメな気がするのだ。ペットとしてお猫様を養うことは、仮に仕方なかったとしても、それがデメリットを打ち消すことだとしても、生半可な覚悟はダメな気がするのである。」

「ごめんよ……！」

後に血涙を流してもおかしくなかつたほど悲しんだと、やたらオーバーに記憶された出会いと別れであった。

重いはずの「E」型を引き摺って走り去つた後、精神を落ち着けるためキューブとまた話している。

「来世は絶対にお猫様飼う。いや、お猫様になりたい。てか宇宙船素直に乗つとけばちゃんと飼えたかもしれないじゃん。はあー初めてちよつと後悔した」

「質問がわかりません。フユ様は猫アレルギーですのでお母様より止められています。気をつけましょう」

「ええ？いや、確かに猫カフェとか行つたことないけどさつき触つたよ。しかも野良だつたしアレルギーなんか気合いじゃ」

「一昔前の老害のようなことを口走りながら、フユが歩く獣道の後ろ。置き去つた魚の切り身を、爪の一振で細かくバラす先程の仔猫。その周りのタイヤ裏や物陰から何匹もの猫たちが警戒心を解かずに出てきた。」

「にやお」

「悪い人間じゃあないね。久々に見たから全てとは断言できんが」

緩やかに揺れる尻尾が、解けるようにして別れる。

「カツパの言う通りだったねえ、少々癩ではあるが」
「な〜お」

「ああ。危険はないって言ったのに信じないものさ」

ところで、猫又は毛なみが黒いほど力が強く、様々な能力があるという。

「ここはもう大丈夫だろう？私は今度からあの子のところで世話になるよ。数十年は養ってくれる“そう”だからねえ」



天文学として確かな情報より、ちょうど百年後、地球へ巨大な隕石がぶつかると発表されました。

教育番組で何度も聞いた百年前のフレーズ。お茶の間に再生された音声はたちまち世界中が肯定し、人類は手を取り合って大きな一歩を進む。

正確にはそのストレスを通るものと予想されたが、向かってきているため正確な位置は分からず、地球の引力で衝突は避けられないものと結論が出た。

みんなが大掛かりな二人三脚を行い、端にいた私だけがそつと足を結ぶ紐を解いた。それは団体としてはありえないことであるため隠れて。隣の子も大忙しだから気づくはずがない。数歩引いてから見ることができた景色に、少し同情した。

こんな景色を見れないなんて、と。

夜空を彩る色は優しく、時に激しく、天頂から世界に向かって無数の流星が空を覆い尽くす。背景は熱く発光した隕鉄が闇色にも青色にも輝きそれを煮詰めたようなグラデーションが広がる。宝石箱なんて表現も生ぬるい、星の最期が見せてくれる最っ高の贈り物だ。地球のカメラにアクセスしてる者もいるだろうが、この眼で焼き付けられるのは私だけ。それが、たまらなく幸福で。

咄嗟に足が走り出す。自分は、他人が持っていないものを持った」という最低な理由で幸福を感じたとしても。

息苦しいあの世界に、何もかも強制してくるあの世界に、知れるはずもない過去をとやかく言うあの世界に……

口汚くざまあとも言ってやって。

唯一の人口光のキューブの隣で大声で笑って泣いて叫んだ。

どれだけ後悔が付き纏おうと、どれだけ自分が憐れみに晒されても、この最期に、生きてよかったと終止符を打てる私はきつと世界で一番幸せ者なのだから。

ウェブサービスのすゝめ

Kuruma

でも、新入生の皆様へ入学おめでとうでございます。5年電気工学科の音楽班所属のKurumaと申します。因みに、楽曲の制作活動ですが「最近、全くやっていないので音楽班所属ってなんだろう」という気持ちになっております。

コラムも2019年度Aldhemyの「音楽班の活動紹介的なコラム」に始まり今回で4個目のコラムとなります。実はコラムの文化はHPにある2014年度秋季会誌「なけなしのかね」から存在していて、オタクが深いオタクな知識を披露出来る唯一の場所だと思っているのでコラムをパンパン書いてくくと密かに思うなぞがございます。サブタイトルで「コラムが出来たら面白いなあ…因みに音楽班班員は絶賛募集中です。」では、そろそろ本題に入りましょう。

ウェブサービスのすゝめという事も基本はスマホ・タブレット等のデバイスにインストールして使えるような便利ツールです。だが敢えて、PCで使うならばウェブサービスという形でも使えるという話をします。

まずは、皆さんご存知Google製の各種サービス。私の場合は、Google製の「大神器」の「ドキュメント」・「スプレッドシート」・「ドライブ」をオススメします。Googleアカウント1個作っておけばGoogle Driveの無料分15GB分が使えて全部オンラインストレージ上で管理出来てしまうという「や」軽々議事録を書き出さとかないはGoogleドキュメントで「何かしらHPが更新された際に少し通知をメールとかに飛ばしたじ」がやりたいなら少しスキルは必要ですがブラウザを書くて実現されてGoogleドキュメントは取り代わりになるのでオススメです。但し、きちんとした文書・資料やレポートを書く際は今やMicrosoft製の「大神器」のWord・Excel・Power Pointが強いられるのでガッツリ使うと「や」向いていないのが難点です。

また、最近のGoogle ChromebookなどはGが前「や」のGoogle製サービスを使うことだけに限定すれば連携は強いのかなあと思っております。

2つ目はクラウドストレージ全般。先程上げたような「Google Drive」・「One Drive」等はバックアップ用途等に役立っております。これはよくある話なんですが、例えば、USBメモリ等に保存している実験レポートのデータを破損させて提出日当日「言」訳をせざるを得なくなるという事が発生して結局バックアップは入念に取れという事になるのでクラウドストレージを活用しようという話ですね。1年生の間は手書きレポートがもしもありませんがそのうち役に立つツールになると思います。

3つ目はタスク管理サービスとして「Todo」をオススメします。これは各教科の課題管理にも使えるし部活・同好会で仕事が沢山生えてしまったときのタスクの管理に使えたりします。カレンダーア

プリとの連携も一応できます。課外活動の仕事が多忙になってしまったときは私はよくお世話になってました。リストも作れて、Markdownという記法が説明の編集記法として採用されているのでMarkdown記法が好きな人はきくと使えると思います。

最後に、自分用Wikiサービスとして「Scrabbok」を少しオススメします。これはまあ使い所が少ないと思っんですが書きたいことを書く情報共有・保存ツールとして使うと良いと思います。専門分野方面で何かしらの技術的なページを踏んだりしたときにブラウザの標準機能であるブックマークではさっと量が肥大化すると思うのでWiki形式でまとめたいという、UIもだけ貼って自分なりにコメントを残したりそんな感じの使い方が出来ると思います。ただ、一般的な階層型のWikiなんですがこのサービスは非階層型なので合わない人には合わないサービスなのかなと思います。階層型の場合は「Notion」を使った方が良いと思います。後々、色々なことが一つのサービスでできるので色々なサービスにまたがるのが苦手な方にはオススメですね。

さて、紹介コラムはこれぐらいにしておきます。興味があればガキガキ内のサービス名を検索して少し使ってみる等してもいいえれば「や」コラムを書いた甲斐があります。では、何処かの会誌にてまたお会いしましょう。

shobonnysan

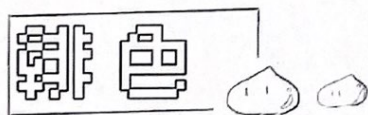
絵の練習のために入りましたが
2, 3枚しか描いていません

最近はウマ娘とApexぐらいしかしてません
にじさんじ箱推し
名取さな最推し


カタメカクレオッドアイはいいぞ

自己紹介

ペンネーム



イラスト班所属

3年物質化学工学科 

Twitter @mizu-nekonya



もちまる

3Iです。会長です。
主にイラストを描いています。
小説も書きたい(願望)

よろしく

フிட்ட-に雜多なイラスト
のせてるのでよければ
ID→@Omochi_Ball



HN: キツタヌ

原稿を落としました猛省します

- ・ 文章班
- ・ 物質科学工学科
- ・ ゲームは好きだけど苦手
- ・ 焼肉屋さん太郎が好き
- ・ タラタラしてんじゃね〜よも好き
- ・ 冷やしたタフグミも好き
- ・ 本名は禿げリーゼント

5年電気工学科のkuromaです。

とうとう音楽班に所属している
だけになった人です。

音楽制作って難しいんだなあ

今年度は**鯖管の人**として
みっそりレツツ…
活動をする予定です。



**部室に現れる可能性が
非常に低いとは思いますが
よろしくお願ひします。**

〜ふきょーかつぞー〜

- 「ウマ娘 プリティーダービーを見る」
- 「うまびよいから逃げるな」
- 「ライスシャワーが可愛い」

モン
ハ
ン
は
い
い
ぞ

趣味はゲームとイラスト制作と自分探し。

4年制した電制科4年生。

あしつと





* FUYUTSUKI-ATK 0 DEF 15

* 3rd grade chemical engineering and music group leader. Couch potato!

you Lv 1 HP  20/20

 FIGHT

 ACT

 ITEM

 MERCY

あとがき

はいどうも。現代視覚文化研究会の編集担当「篝火」です。あら、あとがきから読まれる猛者ですか？考え直しましよう。うつついんですから見てってくださいえ。

よし。ありがとうございます。では改めまして2021年度春会誌『Alchemy』をお取りいただきありがとうございます。

新人生へ向けて作成しているのものでいかせてもらいます。本来この冊子は自由参加のオリエンテーションにて配布させて頂いております。ですがこのコロナ禍にて……え、はよろって？わかりましたよ。

この現代視覚文化研究会という同好会ですが、どんな活動をされるかと言うと、『創作』です。小説書いたり、イラスト描いたり、ゲーム作ったり、音楽作ったり……後者については衰弱しきってさすが。勿論これらオンラインではなく、幅広く活動を容認しています。ただそうなると、やはりそれ専用の部活というのもあるので、あくまで個人が楽しんだり、メンバーに布教したり等自由に行うものです。ついでに年四回、お手元の会誌を作成させてもらっています。春は新人生へ。夏と冬は『』上で。秋の会誌は高専祭で配布しております。

特別絵が上手い方や文章力に長けている方で構成されている訳ではありません。まあ私から見れば「すっげえ」と思う方はいるのですが……

好きこそ物の上手なれ。でも好きだけどこそまでなく。上手くなりたいたいけどなく。最低限出来ればなく。

の、同好会です。実際部室でワイワイソシヤゲやら人生ゲームやら下校時間まで騒ぐ感じでしたね。

家で一人肅々と創作してもよし、みんなでワイワイ遊びながらでもよし。そもそも参加強制ではありませんし、なんなら私が束ねさせて頂いた「代」ですが、半分以上幽霊部員ですしね。

そんな中途半端なものなので兼部〇〇どころか、暇な時顔出した「兼部対象」の部活として見られています。少々昔ですが「資料」と称したラノベやら漫画やら読み放題ですし、ゆるゆると進みとるどころ頑張りといった活動をしております。

では最後に、ここまで部員達の作品をご覧になり、あとがきのここまで読んでくださったあなたに、一つ心を読ませてもらいます。「こんな俺でも書けるわ」でしょ？

鳥肌たったなら僥倖！何言ってんだコイツと思ったなら部室来ないで。恥死する。

まあ私もそんな恥ずかしい時期あったんですよ。な〇うとかいう地雷原読み漁って、いざ実践となると私は悟りました。「文才は母の腹に置いてきました」と。

私の小説やらこのあとがきもう一度振り返ってみましょう。日本語おかしいでしょう？私の話ですが、こんなを会誌に刷って公開処刑。極度の『』でなければ耐えられません。

まあ、売り文句はこのくらいにしておきましょう。何が言いたかったんだと聞かれれば私にもわかりません。締めがこんな雑でもなんとなかなるんですよ。実際げんしけんの魅力は中途半端などにあるので説明しきれませんし。

興味が湧いた方なら、一度顔を出してみてもどうでしょう？性癖やら悪ノリやら黒歴史の宝庫です。弱火の熱意で楽しむ。これが真意。（真面目にやってる方はごめんさい）

では篝火でした。今度は部室で会いましょう。